夕刊
磐城新聞
一月八日發行
定價 一ヶ月金六十五錢（郵稅拾五錢）
廣告料金 普通 一行金六拾錢 雜報欄 一行金九拾錢（五號十二字詰）（場所指定一行金壹圓）
編輯印刷兼發行人 柏木
福島縣石城郡平町十六番地
發行所 磐城新聞社
振替 平局 電話五六四番
〔日曜祭日翌日休刊〕

國歌

櫻木武士

開會までは未だ一時間程あるＹ君を誘ふて會場へ到るともう木戸口は大混雜である、非常時日本を領かしめるにふさはしい大入りの軍事講演會である、中程に陣を占めて煙草に火をつける、紫きの煙りが天井へゆるく登る、ふと向ふを見るとＫ君のきれいに分けた頭が呼んだが振り向きもしない。Ｙ君が立つて行つたとＫ君は近眼の爲半ばより前の方でないと見えないと言ふのでＫ君のところへ座を替へる。講演の時間よりやゝ後れて主催者の挨拶があり在郷軍人分會長の一寸したお話しがあつた、そして今晩の講演者Ｙ中尉を紹介した、Ｙ中尉はスラリとした中丈の好男子だ、軍服でなく背廣だつたのも軍人らしくないが一度口を開けば如何にも帝國軍人として恥しくない立派なものだ

講演に先き立ち國歌と題する映畫が上映された。Ｙ中尉は直立不動の姿勢を取つて

『皆さん此れから國歌君が代を初めますから脫帽して下さい』

と言ふと、ざわざわと脫帽する音が場內に充ちた、樂屋から莊重な君が代が奏でられた、Ｙ中尉いさゝか怒りをふくんだ聲で中止を命じた、未だ命に從はぬものがあると見ゐる、一人でも命にそむくものがあれば斷然君が代は奏でぬと、やがていともおごそかに奏でられる國歌。一同期せずして襟を正したせき一つするものがない、一同合唱する、もう只感極まつて聲も出ない、中には涙を流し咽り泣く聲さい聞こえて來る自分は小學校を卒業して十有五年初めて國歌を歌ふ、感激の極瞼が熱くなつて來た、Ｙ君もＫ君も聲をふるはして居る、此れ迄の講演會には見られぬ緊張した空氣が場を占領してごの顏を見ても強い／＼愛國の情に輝いた瞳が光つて居るのは心强い限りであつた

ペンギン鳥のお正月

島田忠夫

海のまん中
氷山で
ペンギン鳥の
四方拜

黑い洋服
白い胸
ならんで唄ふ
君が代を

とほい海上
走りゆく
汽船も日の丸
なびいてる

北のはづれの
千島じも
やはり日本よ
お正月

社會の今日

1月9日

△ナポレオン三世歿す（一、八七三）△世界大戰講和條約成立す（大正九）△優諚を拜し犬養內閣留任に決す△大日本相撲協會西方力士つひに總脫退△錦西の西北でわが軍匪賊と激戰古賀聯隊長戰死す△上海の學生デモ隊わが總領事館襲擊を企つ△ドイツ首相賠償金支拂繼續不可能を聲明す（昭和七）△岡田海相辭任し後任に大角海相親任△世界經濟會議準備委員會をゼネヴァで開く（同八）

○

猿曳や梅の日和の上總山　鬼洸

先生もマスクをはめてすべつてる、二尺も凍つた八戶の沼　高田彌生

講談 幕末神風組

(91) 土生太郎作　高根秀浩畫

海賊船（三）

海賊、陽春丸の船長坂谷藤十郎は、染香のおせんから、艶めかしく持ちかけられて、相好を崩して了つた

『うむ、うむ、何んちや、云つて見い、遠慮氣兼は無用ちや』

『あのを……』

染香は、坂谷の腕にもたれかゝつて、其の腕を何んといふことはなしに弄んでゐる

『何んちや……』

『……此の船は、これから何の方向へ向けて出帆します——？』

『あはゝゝゝ、何事かと思ふたらそんなことか、心配することはないわ、身どもがついてゐる』

『でも……』

『でも、どうした——』

『私、此の船の行く先きを知りたいのですわ』

『あはゝゝ、それを知つてどうする、そんなことは考へぬがよい、それより、これでも呑んで少し陶然とするがよいわ』

坂谷はアメ色の酒を染香の口へ流し込まうとする

『嫌、嫌でござんす』

『あはゝゝゝゝ、そのやうに手を振つては、これ南蠻渡りの洋酒がこぼれて了ふではないか』

坂谷は、あわてゝグラスを自分の口へ持つて行つたと、その顏を見あげるやうに染香——

『ね、お頭さん、私どうでも船の行く先きを知りたいんです！』

『あはゝ、強い執心ちやなあ、しかし此の船は見る通り盜人船。方向定めず、かぢのおもむく儘に行き當りバッタリ惡事のたけを働かうつて寸法なんだが、今度は、京洛をさけて、一つ蝦夷地へまわらうと考へてゐる——』

『…………』

『あつちは世の中が物騷だと云つても、まだ、幾らか呑氣なところがある。此の船にや、しこたま方々でぶん取つた品物が山なしてゐるよ、此奴を商船に化けて奧羽松前かけて捌いて行くのだ。まあ、まあ、世の中にこれほど、ましやくのいゝ仕事は滅多にありやしねえ——さあ、其方も一杯お祝ひだ、今度こそはこぼさねえやうにのむんだ——』

誰が、何んのお祝ひだ、私わ、こんなところへ連れて來られて大迷惑さ——腹には思つても、流石に口に出してまでは云ひ兼ねる。が、差し出されたグラス見向きもしない

『おい、どうした、又ひどく沈んで了つたが、そんなに家のことなど考へるものではない、かうなつたのも皆何かの因緣とあきらめるさ、そんな不景氣な顏は止めにすることだ……』

坂谷は、染香の顏をグッと自分の方へ捻ぢまげて笑つた

『何をするんだい！』

染香の紅唇から、思はぬ怒聲が洩れた

『何！』

『何を失禮なことをするのかつて云つてるんだよ』

『何、何だつて……』

坂谷は、俄に身体を構へ直すと要心深く染香を見据ゑる

『ヘベン、何だい、何だつて云やあんでね、人が下からおとなしく出てゐりやあいゝ氣になつて、圖々しいにも程があらア！妾を誰だと思つてやがるんだい』

染香は顏をほんのり上氣させて凄いたんかを切りはじめた

南蠻渡りの獅子の壁掛を背に負つてすつくり立つてゐる染香の姿は、又となく凄艶なものである

荒くれ男を手足の如くこき使つて荒浪を蹴立て近海を縱橫無盡に荒し廻つてゐる陽春丸の船長坂谷藤十郎も、染香の餘りにもあでやかなたんかの切方と水のたれさうな妖艶な姿にしばしが程は呆然としてゐるばかり。要心深く構へた構へも何時かその手許がお留守にさへならうとしてゐる。て何んて凄い女だ！藤十郎はぐつとつばを呑み下した

潮聲硯靜抄帳

十二月集

第十回　その一

大津 義仲寺　天野雨山
秋ゆくや眞白き壁の翁堂
翁堂の格天井は若冲旭堂
夜は蕪村描けり
天井も襖も秋の暮はやく

湖畔
夕昃る比良や比叡や鳰

神戶 市引山
ゆくほどに灘あらはれし紅葉哉
灘の音はげしき峽の照葉かな

初冬　丹羽翠雨
初冬や風垣低き豌豆畑
石蕗咲くや海荒れてゐる二三日
冬川や日にかたよれる家鴨の子

露時雨　清宮文峯
露時雨軒に秀でゝ松靑し
絕えず鳴らす法鼓になれて笹子鳴く（草花）
後の月芒に添へる花もなし

冬枯　內田黄坡
冬枯や沖田のはての白き馬
北風や笛吹き鳴らす竹梯子
荒磯の波の寒さや海鼠突く

病中無聊　片寄文狂
恙おこたりてそのまゝ冬籠
起伏しに妻わづらはす布團哉
またしても上厠備す寒さかな

村時雨　高久晚霞
むら時雨すぎて葎の骨ひかり
凍星や玻璃戶越しなる二ッ三ッ
人吠ゆる犬呼び入れて夜寒かな（愛犬四郎）

短日　渡邊武門
短日や晝を灯して商へる
冬の野や大河流る音ばかり
梁の漆のごとき榾の宿

冬木立　阿部芳月
冬木立透ける社の赤鳥居
凪の水しは白き湖上かな
大雪の外に音なき夜半哉

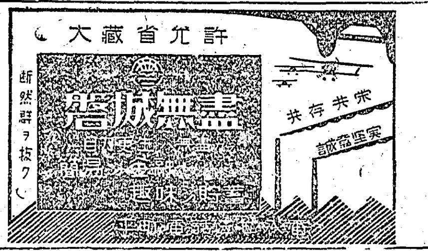
落葉　金子石城
落葉焚く烟ゆら／＼夕空へ
枯芦のひれ伏す崖や十二月
萬兩の影ゆれて居り冬の月

時雨と冬野　赤羽松堂
雲切れて夕陽の白らみ時雨空
定まらぬ雲の往來や片しぐれ
庭掃くや二度の時雨の返し來ぬ
○
枯るゝもの枯れて冬野の蕭條と
うすら湯の枯萱原に吸はれけり

廣告

美味で評判の
イワキサロン
平町電三五二

磐城名物
靈峰羊羹
平屋賣店
小川郷驛前



現場員募集 貳名
年齡參拾才位迄、身体强健、工手學校卒業位ナ實力アル者
福島炭礦

無硫酸……不凍
泡沫……強力
〔特許貳億萬圓消火器〕
福島縣一手特約店
泉屋 大嶺商店
假事務所平町鍛冶町二九
電話五〇三番

お醬油は……ヤマフル
鹽屋
山崎合名會社
福島縣平町
電話（營業部一〇番 本店二七番）
味噌 醬油 たひら正宗 鰹節 食料品
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

生花教授
池ノ坊流 生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町四丁目和泉屋旅館
須藤まつの

入院隨意（自炊の便あり）
外科專門
X光線科
平南町
上田醫院
病室完備
（電話二二九）

產婦人科
外科
藥局
院長 木村寅次郎
醫學博士 內木宗八
藥劑師 立番彌一
入院隨意 病室完備
平町新川町十九番地
木村病院
電話一六四番

社員招聘
一、集金販賣係 五名
經驗の有無に不拘小學卒業以上身元保證人アル廿二歲以上五十歲迄
一、見習社員 二名
小學卒業十六歲以上の男子 但シ會社住込ミ勤務
平町田町通り
シンガー裁縫機械會社支店

耳、鼻、咽喉科
氣管食道科
專門
平町南町
大和田醫院
（電一〇七番）
大和田郡司
（自炊の便あり）

淋藥界の最高權威
無効返金（二日間服効なき時は殘藥引替に全部返金す）
別府淋藥
一週間…赤箱—金五圓 黑箱—金參圓
世界の名湯別府温泉で名高い。岩里家の家傳秘藥は男女血ウミ、コシケ、淋病消渴に奇蹟的効果ありどんな頑固な痳疾でも短時日に根治が出來且つ再發することなく注射や他藥で治らぬ諸賢は最後の藥として迷はず……名藥別府淋藥の御服用に依り幸福を得られん事を希望致します。
別府皮膚藥 金三十錢 金五十錢
天下の名湯別府温泉のラヂウム含有の精に各病醫院及最高學府の處方劑集め大成せる皮膚病特効藥であります、たむし、いんきん、みつむし、なますしらくも等其他皮膚病に卓効あり。
九州別府市鶴乃園 岩里天然堂
平町三丁目北裏通り
代理店 渡邊いと
（特約店募集）

夜間診療
胃腸 性病 專門
內科 胃腸病科
花柳病科 性病科 皮膚科
松村胃腸性病科醫院
（平町南町電一〇七番）

平町田町
高久病院
（電話五三一番）
醫學士 高久[illegible]
新潟醫專醫學士 赤羽[illegible]
藥劑士 佐竹[illegible]
內科 小兒科 外科 花柳病科 耳鼻咽喉科 レントゲン科

眼科專門
院長 醫學士 吉田安雄
吉田久雄
吉田眼科病院
平町紺屋町 電六八

月曜論壇

都計と町民道德

平町の都市計劃は小名濱町の其れと共に既に事實の問題となつた。今後法の定むる處により先づ區域の調査資料たる行政區劃圖、人口統計表、面積及人口密度表交通機關配置圖、上下水道配置圖、風致景勝圖等の作成申達を皮切りに、町長其他兩三名より成る委員會等の機關が拮据經營、現在の平町を住宅、商業、工業の各區域に分ち、土地の區劃整理、道路下水の完成、諸種交通機關の發達助長、防火、衛生、經濟上各般の整備等苟も間然する處無き大平町の出現は念ふだに欣快に禁へざるものがある、若し夫れ所謂痴人の夢として笑殺する事無く平町の都計實現後に於ける吾人の假設を認容さるるなれば地勢高燥にして而も閑靜なる舊城址は住宅地に、從來平町の心臟部たりし大通りを中心とする半徑若干の區間は商業地帶に、而して將來の町勢伸展上その開拓の先驅として最も密邇の干繫に在る工業地帶は之を遠く現在の片倉製糸工場方面に求めんとする事は蓋し差當り最もプロバビリチに富んで居る餘りに明白なる理論として多くの反對が無いものと確信する、果して然らば今後町の機構に影響する總有る方面の規劃經營に就ては徒に個人的利害關係に囚はれず、多少の犧牲を拂つても尚ほ他迄都計の目的內容に副ふべく努力する事が眞に善良なる町民として軈て町に忠實なる所以であらう、遮莫、昨今搔槌小路區民間に左右の云爲を試みられつつある色川製材工場の火氣使用に關する紛紜に就て吾人は一部の所謂『電力にても危險なりと恐怖する製材工場を更に數倍危險なる火力工場に變更するときは時代錯誤も甚だしく寔に言語道斷にして』云々の當否を遽に斷ずるの輕忽を避くるものであるが愚見にして尚ほ聊か肯綮に當るものありとせば親愛なる町民は此際全平町の大局から須く機宜の解決をなすべきである

宮殿下御成の日を漁業開發相談日に定む

史蹟として保存する豊間村

一昨六日初村會で決議

東久邇第二師團長宮殿下には客臘廿三日豊間村鹽屋崎燈臺に御成り遊ばされ、其際鈴木村長親しく御先導申上げたが同村では 殿下御成の日を永久に記念すべく一昨六日の初村會に於て之れを議決した、右に就き同村長鈴木藤治郎氏は語る

宮殿下の我が村に御成り遊ばされたるは豊間村創始以來初めての御事で特に其際 殿下には畏くも御足を築港玉砂利の積み重ねたる高所に迄御運ばせられ、漁港修築の狀況を御聽取あらせられたる外更に漁民の生活產業等に就き漁民生活困難の者に村は如何なる措置を取つたか、又た將來の漁業は近海漁業より進んで遠洋漁業に計畫せよ、資本は個人主義でなく合資若しくは共同株式等規模を廣く、築港の將來を有効に利用せよ、との御言葉を賜はりたるは返す〳〵も感涙に咽ぶ次第で村に於ては 殿下御成の十二月廿三日を『漁業開發相談日』と定め、毎月一回會合し、尚ほ 殿下の御立ち遊ばされたる所は其儘玉砂利をコンクリートに固め、松樹を植へて永久史蹟として保存する計畫を樹てた次第であります

地主が强硬で

第三小學用地買收委員連困惑

愈々最後の促進策を練る

平第三小學校の增築に伴ふ運動場擴張の土地買收は過般來六名の關係地主に對し一坪三圓の割で交渉を進めて來たが未だに諸橋氏一名の外容易に纏らず、當局では新學期も漸く切迫した事から頻りに焦つて居り近くこれが委員會を開き急速に交渉を開始する事になつたと

朗かな記錄を前に輝く今年の炭界

客臘中の山元發送統計

春以來全然例外ぬきで增加の一途を辿り通した常磐炭の八年度掉尾客臘二十一日より大晦日に至る發送高は

營業用—四、五二一車五五、一一〇噸、省用—二、三五四車三〇、三四四噸、合計—六、八七五車八五、四五四噸

で前年同期に比し營業用七一八車四、八四七噸、省用七八七車四、一四〇噸、合計一、三二五車八、九八七噸の增で

（同月分合計發送高）營業用—一二、五九六車一五三、四九二噸、省用—六、〇四六車七八、六三八噸、合計—一八、六四二車二三二、一三〇噸

は前年同月分を突破する事實に三千四十九車、二萬二千二百八十八噸の增加で朗かな記錄の下に今年の常磐炭界は輝かしい明日を約束された形ちである

石城町村長會

十三日役場會議室で

石城郡町村長會は既報の如く來る十三日午後一時から會議室で開くが提出事項左の如し

皇太子殿下御誕生記念事業に關する件、年末年始冠婚葬祭に關する件、昭和九年度町村豫算編成に關するの件、蠶業取締所平支所收支決算の件、全國町村長會定期總會の件

小玉川發電所增設

小川村小玉川發電所では更に同村西小川地內に第二發電所を設置すべく目下諸種計劃を進めて居り來る十一日頃係員が測量其他をなすと

第二校學校郵便物配付

平第二校內學校郵便取扱ひの年賀狀は總數約四千五百で今日始業式後夫々配布された、右に就き津田第二校長は字句數字住所姓名その他誤りないのが自慢していゝ點だと語つてゐた

石城郡醫師會 今八日午前十時から常磐銀行平支店樓上で開いた

貯金の拂戻し高約四割方增加

他は略ね嬉しい黑字

年末年始の平局、そは限り無く呑み込む超々特々の健啖で而も之を消化するに左迄苦しまぬ恐るべき胃の腑である、之を數字的に眺めると（括弧內前年）

△小包（十二月十五日より一月五日迄）引受一、八五〇（一、六三四）一割三分の增、配達四、三四八（三、七〇九）一割七分の增

△電報（十二月三十日より一月五日迄）發一、五〇八（一、五六一）三分四厘の減、著二、二六九（二、一六六）四分八厘の增

△市外通話數（十二月二十五日より一月五日迄）發四、〇九〇（三、八〇五）七分五厘の增、著六、二四〇（五、九九九）四分の增

△市內交換呼出數（十二月二十日より一月五日迄）一七五、六九八（一六九、六六〇）三分九厘の增

△爲替（十二月二十日より三十一日迄）振出口數七六四金額二三、五〇九、〇八（八二二口金額二二、六七七、八五）口數七分一厘減、金額八分四厘增拂渡口數一、〇二三金額五二、一一六、二三（口數一、二二五金額五五、四七〇、八五）口數金額共に一割六分五厘の減貯金預口數、二八二金額八七、七一〇、六九（口數三三五金額二一、九一五、九〇）口數七分四厘減、金額一割九分一厘增拂口數九〇三金額七八、三七九、一六（口數一〇九金額二八、四二六、二四）三割九分增

△葉書賣捌（十二月十日より一月五日迄）一、九五二、九〇〇（一、七八九、六七四）九分一厘の增

△一錢五厘切手四一一、三〇八（三六八、二八八）一割一分七厘の增

△切手代（十二月中）三一、二七四、七四（二七、八一六、一四）一割二分四厘の增

△葉書賣捌代、二八、二六一、八三（二五、五八一、七八）一割五厘の增加で電話發、及爲替、貯金口數の外他は何れも增加を示してゐる

目標二萬を突破

簡保擴張の宿願を達し平局で記念祝賀

平局では簡易保險の勸誘に全局員を擧げて努力を續けてゐたが客臘末に至り漸く目標の二萬を突破したので此が記念祝賀會を來る十五日頃開催の豫定であると

矢田溜池着工 鹿島村大字上矢田地內灌漑用溜池の改修匡救工事は既報の如く大字內に反對の者あつたが村長區長等の斡旋により愈々調印纏り昨七日着工した

緊張の第三學期に

正月氣分から脫してけふ各校の始業式

學校生活者の總決算期第三學期が愈々來た、今日各小學校では朝會の際始業式を行ひ大掃除等をなし、磐女その他各中等校も同樣午前九時から行つたが獨り磐中校では朝禮の時簡單に式を濟したのみで直ちに授業を開始した

平署寒稽古

平署では既報の如く今八日から十七日迄寒稽古を行ふが時間は午後二時から四時迄で一般の參加を歡迎すると、尚初日の今八日は署內の高點試合を行つた

湯本役場新廳舍

近く盛大に落成式擧行

工費一萬二千圓で去る十月初旬着工した湯本町役場は客臘來大工、左官三十餘名で外裝工事を進めて居たが愈々去る六日竣功したので近く盛大な落成式を擧行する筈である、因に同建物の事務所は階下七十八坪、二階三十八坪の木骨コンクリート造りの外土藏、小使室も備はつた至極モダンな設計であると

誤つて爆藥を叩き坑夫無殘の死を遂ぐ

昨日王城炭鑛の椿事

內鄕村大字白水居住王城炭鑛坑夫高橋勘左六（四二）は七日午後一時半頃第三坑內で作業中誤つてダイナマイトに鶴嘴を打ちつけ爆發慘死した

小川江視察

全議員あす現場へ

工費五萬二千圓の小川江筋工事は既報の如く昨七日から着工したので同組合議員二十四名は明九日下小川村平洋兩村の着工現場を視察すると

蕃殖馬檢診

石城產馬組合では左記日割で蕃殖牝馬の健康診斷を行ふ

一月十五日田人村（黑田種付所）十六日同（產馬總代宅前）同十七日荷路夫村（同）十八日貝泊村（同）十九日石住村（上山廣場小學校前）二十日上遠野村（產馬總代宅前上遠野糶場）二十一日同（上瀧川原下瀧廣場）二十三日川前村（產馬總代宅前）二十四日同（桶賣糶場）二十五日同（同）

構成教育講演

既報—修養會主催に係る元第一校教員東京新建築工藝學院講師齊藤利彥氏の構成教育講演會は今八日午前十時から第一校講堂に於て開催參會約二百盛大であつた尚明九日より五日間午後二時から四時迄左記により講習會を開くが定員三十名會費七十錢であると

第一日（九日）平面構成、第二日（十日）色彩練習、第三日（十一日）觸角練習第四日（十二日）觸角の視的練習、第五日（十三日）空間構成

刑事異議增加

平區裁判所に於ける刑事異議申立は昨年後半は至つて閑散の態であつたが新年となつてから果然一日三四件計十件の著しい增加であり舊年末を控へた關係からと見られて係員をこまらしてゐる

五十七萬圓が煙

水專平出張所管內の昨年中タバコ消費高

水戶專賣局平出張所に於ける昨年度中の總賣上高は五十七萬八千圓で前年に比し一萬七千圓約三分の增加を示したが最も捌けのよいのはこれが依然バット二十二萬二千圓でなでしこの十三萬圓がこれに次ぎ敷島に至つては僅か七千餘圓であると、尚昨年賣上げを管內人口老若男女十八萬八千人に割り當てゝ見れば一人當り何と三圓二十錢宛を紫煙に化す勘定になると

赤井青年武道練習

赤井青年團では農閑季を利用して來る十五日から同村補習學校で武道練習をなす

岩崎教諭著任

磐女校では過般退職した鈴木應善氏の後任として此程岩崎敏夫氏が著任した氏は本縣相馬中學卒業後國學院大學に學び昨年三月業を卒へた秀才で今八日午前十一時から歡迎の茶話會を催した

ボンタ判る

平町田町米京方藝妓山形市生れボンタ事三浦マス（一八）は先月四日前借千圓で山形市三好家事小菅山カヨ方に替えしたが間も無く同家を逃げ出し平町に潛伏中を六日平署に捕はる

新年會たより

平警察署 今八日正午より會議室に於て催した

町村長石城支會 十三日午後三時から谷口樓で

平局傭人新年會 昨七日午後六時より谷口樓で開催盛大であつた、尚庶務係は明後日頃行ふ豫定であると

今年のあなた

（平町〇△生）

（中）

今年のあなたには勇氣と注意が肝要です。今までこだわつてゐた障害——永い間の難關も打開することが出來ます。紛議も解決します。病氣も快癒に向ひます次第々々に氣分が朗かになり、勇氣が增して來て幸福に包まれることが出來ますたゞ肝腎なのは分を忘れぬこと己惚れぬこと强情我慢であつてはならぬことです

五黃土星 今年のあなたは決して吉い運勢でない勝氣で負け嫌ひで兎角向ふ見ずになり易いあなただが、その氣性を力强く壓へて、辛抱を第一とし、見榮を張らずに、少しづゝの實利を納めるやうに心懸けねばなりません。退嬰一方には及ばぬが、進み方で失敗損失を免れぬか、よく自分を自分で認識して負け嫌ひや大望はお捨てなさい

六白金星 今年のあなたは雨風に揉まれて傘一本を損じまいとするにさへ大層な努力の要る運勢です。氣苦勞が多く無駄働きが續き、摑んでは失ひ、取つては捨てることになつて、どうも希望も滿し發展をすることが出來ない。動き度い氣が頻りに起つても旅行移轉は控へなさい。勿論爭ひ事は徹頭徹尾避けねばなりません

春の夕靄（ゆうもお）

茶番白扇の卷

北六『えゝ彌次さんや』彌次『うん』北『うんと言ふ奴があるか、ハイと言ひなさい』彌『ハイ』北『さて私には何でも出來ない事はない』彌『はゝあ』北『諸藝十八般悉く心得がある先づ手に持つたこの白扇、これを私の身體の何處へなりとお望みの所へピタリと付けて見せます。頭の上へつけては白扇逆しまにかゝる富士の靈峰、足の先へつけては白扇水中に浮く田子の浦曲の夕なぎとござい。其他鼻の先でも胸でも背でもピタリと自由自在につけて見せます』彌『形容詞はもう宜しい、早くやつたり〳〵』北『はゝあ、それでは早速に取掛ります』と身振り宜しく身體の方々へつけるがパタリ〳〵と白扇は落ちる。こんな筈はないがと首を傾げて何遍もやり直す。その滑稽な仕草に彌次さんハラ〳〵して『オイオイ君、それは何遍やつてもつかないよ』北『どうして？つかない事があるものか』彌『いや昔からちやんと言つてゐる』北『何と？』彌『白扇（惡錢）身につかずつてれ』兩人『ハイ御退屈さま』

……〇……

落磐

湯本町字日渡六〇百治妻入山炭鑛撰炭婦淺間ヒサ（三九）は六日午後三時頃第四坑貯炭場で作業中重傷間もなく死亡した

モ中

朝鮮全羅南道和順郡通谷西坪里生れ林東一（三五）は大正六年九月以來北海道、東京と轉々昨七日北海道の友を賴つて行く途中持病のモヒ中毒で町役場から醫療を惠まれ旅立つた

九日

日出 六、五一 月出後 一一、〇〇
日沒 四、四五 月沒前 一一、〇〇
滿潮前 一〇、四〇 干潮前 三、五〇 後 五、三〇

舊十一月廿四日
火曜 庚辰 佛滅 平 翼宿
新一月九日

諸判定應需
東京市本郷區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部 神誠館

▲一白の人全身の力を注ぐも手應へなく無駄に終る日 ▲二黑の衆人目を牽く發達は望み難きも應分の利あり ▲三碧の人爲す事意に叶はず捨鉢となりて益凶に傾く ▲四綠の人本業大切と固守して凶災を招かぬ注意肝要 ▲五黃の人一致協力は能く非運をも免る病厄盜難警戒 ▲六白の人開運發達の日柄屈する所なく進み求むべし ▲七赤の人利じゆん多大なる日なれど妄りに人言に迷ふな ▲八白の人德義を重んじてい正に身を處すれば開發の兆 ▲九紫の人名利共に揚りて一家光明に輝く日發奮に吉

外科 全般 內科 小兒科
醫學博士 渡部義夫
女醫 渡部きい
平町田町大通り（電話二七七）
渡部外科
（入院應需）

毛糸
御安くなりました
並太毛糸 一オンス 十二錢五厘
春色全部揃ひました。
相變らず御引立の程を。
平町田町 ハシモトヤ糸店
電話十四番

謹啓 妻キヨ俄ニ心臟痲痺ヲ以テ一月七日午後一時死亡、養父慶次郎ハ十數年中風症之處十二月上旬ヨリ心臟衰弱加リ終ニ一月八日午前九時七十六才ヲ以テ死亡仕候此段謹告仕候永年格別ノ御交誼御指導を賜リ候段厚ク御禮申上候

追而葬儀ハ途中葬列ヲ廢シ一月九日午前十一時ヨリ午後一時迄九品寺ニ於テ同時ニ告別式相營ミ、同寺墓地ニ埋葬可仕候尚甚ダ乍勝手時節柄造花、放鳥等ノ御供物ハ御辭退申上候

昭和九年一月八日

平町三丁目

親戚總代 三森虎雄 草野長喜 柴田德二 永山和平
友人總代 小野伊佐治 大森勇 猪狩庄平
元店員總代 鷲山寅次 永山小平